

令和4年度 第1回鯨ヶ沢町総合教育会議議事録

開催日時

令和5年2月10日（金） 午前10時00分開議 午前11時27分閉議

会議場所

鯨ヶ沢町役場 2階 庁議室

委員（構成員）

平田衛（町長）、阿彦正弘（教育長）、山崎康裕（教育委員）、尾崎充美（教育委員）、
今郁子（教育委員） 〔※欠席〕田附藤子（教育委員）

事務局及び関係者

〔事務局〕 神広丈（総務課長）、神哲也（社会教育課長）、清野守（学校教育課長）、
伊東直樹（総務課総務班長）、奈良貴光（社会教育課社会教育班長）、
千田秀人（社会教育課スポーツ振興班長）、須藤久輝（学校教育課学校教育班長）、
工藤成人（学校教育課学校給食センター所長）
〔関係者〕 加藤隆之（副町長）、川浪久和（西海小学校長）、三橋豊（舞戸小学校長）、
相馬治（鯨ヶ沢中学校長）

次第

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 意見交換 鯨ヶ沢町の今後の教育環境の在り方について
- 4 教育長挨拶
- 5 閉会

配付資料

- ・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 関連法令等
- ・ 資料1 小中一貫教育体制及び教育環境に関する説明
- ・ 資料2 2つの委員による三戸学園視察の実施
- ・ 資料3 児童生徒数の見込みと不登校の実態
- ・ 資料4 各校舎の現状と今後の対応
- ・ 資料5 小学6年と中学1年並びに保護者からの調査結果
- ・ 資料6 CSタウンミーティングで寄せられた地域の意見
- ・ 資料7 ふるさと学習の年間カリキュラム

伊東総務班長	<p>定刻となりましたので、ただいまより、令和4年度第1回鱈ヶ沢町総合教育会議を開催いたします。</p> <p>会議を始める前に、事務局から報告があります。</p>
須藤学校教育班長	<p>おはようございます。</p> <p>事務局から、会議に先立ちまして、報告があります。</p> <p>まず、田附委員は、本日所用のため、欠席です。</p> <p>また本日の会議には、各学校長にも出席いただいています。皆様にお配りしている次第の最後のページに、鱈ヶ沢町総合教育会議設置要綱があり、その中の第5条、資料では赤字で表していますが、当会議に必要と認める場合、関係者の出席を求めて意見を聴くことができる、ということで、本日は各校長に現場の生の声をお聴かせください、とのことで、アドバイザーとして呼びしております。</p>
伊東総務班長	<p>続きまして、町長から挨拶をお願いします。</p>
平田町長	<p>みなさん、おはようございます。</p> <p>本日はみなさんお忙しいところ、ご出席をいただきましてありがとうございます。</p> <p>また日頃から、町の教育行政に対しましては、ご理解、ご協力を賜りまして、本当にありがとうございます。</p> <p>総合教育会議ということで、例年、毎年1回開催してみなさんとさまざまお話ししているところですが、教育委員会の制度が変わりまして、今は町長も教育行政にかなり関わっていくという国の方針があります。</p> <p>もともと町長部局と教育委員会が協力連携するのが当たり前ではありますが、この教育委員会制度が変わったことで、より前に進んできたと思っています。</p> <p>さて、先般、ある本を読んでいたところ、日本の英語教育について書かれていた内容がありました。</p> <p>日本が英語教育を始めたのが、明治時代と言われていました。</p> <p>当時日本は、西欧列強に追いつけ追い越せということで、そのためには、英語が絶対必要だ、という考えだったようです。</p> <p>一方で、日本語は非常に難しい、と。漢字、片仮名、平仮名があり、しかも漢字は何千字も覚えないと文章もなかなか書けない、話すことはできても文章が書けない、ということもあったそうです。</p> <p>そこで、初代文部大臣の森有礼という方が、「英語の国語化」を実施しようとしたそうです。そこで大反対にあってしまったようですが、ある意味面白い試みではあったのかな、と思っています。</p> <p>ただ、その後の英語教育というのが、読むこと書くことが主となっ</p>

	<p>て、話すことを重要視してこなかった、と。それがいまだにずっと続いて、我々を含めて、英語を話せない子供たちが多いです。</p> <p>今は小学校から中学校まで、そして高校まで、さらに大学では2年間英語を学んではいますが、それでも英語を話すことができない状況にあります。</p> <p>町では、外国語指導助手が2名いますので、もっと話すことができる英語に取り組んでいかなければならない、と思っています。</p> <p>東南アジアでは普通に英語を話すことができているなかで、日本は昔から英語教育を進めているわりには英語を話せない、この状況を考えていくべきだ、と思っています。</p> <p>私は、学力が高い子供たちをみなさんと一緒に育てていきたい、と思っていますし、また、身も心もしっかりとした子供たちを育てていければ、と思っています。</p> <p>今は学校を取り巻く環境も非常に厳しいと思っていますし、学校側も大変であると思っています。</p> <p>そういうなかにあっても、現場のみなさんや教育委員会もしっかりと考えた教育、というものを、ぜひ我々と一緒になって取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p> <p>本日は、小中学校の校長先生もいらしていますので、いろんなお話を伺えると思いますし、充実した会議になればよい、と思いますので、よろしくお願いします。</p>
伊東総務班長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは意見交換に入らせていただきます。</p> <p>総合教育会議設置要綱の規定により、町長が議長となりますので、ここからの進行を町長をお願いします。</p>
平田町長	<p>はい。それでは、意見交換ということで、しばらくの間、進行を務めさせていただきます。</p> <p>今回のテーマが、「鱈ヶ沢町の今後の教育環境の在り方について」ということです。</p> <p>項目が1から3までありますが、1つずつ進めていけばよいですか。</p>
須藤学校教育班長	<p>すべてを説明してからをお願いします。</p>
平田町長	<p>はい、では、項目1から3まで一通り説明をしてから、みなさんからご意見をいただきます。</p> <p>では事務局から、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>－資料にもとづく説明－</p>
平田町長	<p>はい、ただいま学校教育、社会教育それぞれ事務局の方から一通り説明をさせていただいたうえで、一つずつお話を伺っていききたいと思います。</p> <p>まず、項目1の教育現場から考える小・中学校の一貫教育体制について、どなたかご意見はございませんか。</p>

	<p>まずは教育委員のみなさんから、山崎さん、実際に視察してどうでしたか。</p>
山崎委員	<p>はい、三戸学園を視察しての感想ですが、ここは、もともとあった小学校の校舎に増設する形となっています。</p> <p>前庭、グラウンド部分が小学校、周囲の畑などに野球場や大きなグラウンド、プール、また給食センターも付属していて、三十数億かけて作られたそうです。</p> <p>実際、中に入ってみると、今まで自分が見てきた学校とは違う雰囲気であり、綺麗で機能的でした。</p> <p>子どもたちも、統合したため人数が多く、うらやましいという感想を持ちました。</p> <p>視察を終えてから質問をしたのですが、その内容は、ポジティブに聞こえるようで実はネガティブなものでした。この先10年後、20年後のビジョンはどうなっていますか、と。</p> <p>それに対して、町のことを考えてもらえるような子供達に育てたいし、そのような子供達が増えることを願っています、というような回答を得ました。</p> <p>三戸は鱒ヶ沢と同じく、子供たちが少なくなっていく地域なので、あのような規模の学校はいずれ寂しくなっていくのかな、と思っています。</p> <p>鱒ヶ沢町の場合、先ほどの資料にもあったとおり、あと数年経つと中学校でもクラス替えできるような状況にはならないと思っています。</p> <p>昨年12月に、三戸学園は10周年の式典を開きましたが、三戸が検討会議を設置したのが2006年であり、そこから17年が経過しているので、7年ほど検討などに費やしています。</p> <p>これから鱒ヶ沢町も動いていくとなると、さらに7年、8年ほどかかり、新しいシステムを作ったとしても、あまり大きな規模にはならないのかな、と思います。</p>
平田町長	<p>尾崎さん、いかがですか。</p>
尾崎委員	<p>はい、私は、小中一貫に関して、その方向に進んだほうが良いと思っています。</p> <p>ただ、小中だけではなく、子供を育むという大きな視点から、鱒ヶ沢町の教育を考えていけば良いと思います。</p> <p>昔から、「衣食住」という言葉がありますが、この「衣」の部分、「育」として、「育てる」という意味とした言葉でも良いのかな、と。あくまで個人的な意見ですが、「育食住」という観点も必要かな、と思っています。</p> <p>その場合に、私たちが生活していくうえでの基盤は、小中だけではなく、いろんな分野で基盤整備があって、それがやがては町の維持、発展に繋がっていくのではないかと、と思っています。</p>

	<p>私はかつて、県内のある自治体首長の話聞いたことがあります、その方が言うには、その自治体の将来の発展を見越して、インフラの整備に力を入れ、その成果が段々と出てきている、とのことであり、「なるほどな」と感じたところです。</p> <p>話しを戻し、「育食住」の「育」に関しては、小中だけではなく、入学する前の段階からも考えていく必要があるのかな、と、また、中学校後のステップ、高校へ入学、または社会へ出ていく、大学、進学していく、そこまでもあわせて、どういう対策をとるべきか、また、どんな学校教育の作り方をすべきかが重要であり、その視点も忘れずにしたら良いと思います。</p>
平田町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今さん、いかがでしょうか。</p>
今委員	<p>はい、私も、基本的には、賛成です。</p> <p>先日のお話のときに、いじめや居場所が無くなった子供が、中学校の入学をきっかけとして、新しく友達ができ、など、そういうお話をしました。</p> <p>中1ギャップという言葉聞いて、ポジティブ、ネガティブどちらも持つことなのかな、と思いました。</p> <p>新しいところへ進むことは、良い事でもありますし、また、その子にとっては、不安などギャップに陥ることもあるかもしれませんが、良い方に、これから生きていくうえで、強くなれる力を持っていかなければならないと思うので、良い方へ考えて、ずっと続けていける学校が良いのかな、という気持ちです。</p>
平田町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、現場の先生方の声ということで、まず、舞戸小学校三橋先生お願いします。</p>
三橋校長	<p>はい。</p> <p>資料にあったとおり、不登校については、ほぼ出校しないケースと、少しずつ登校してくるなど、いろんなケースがあります。</p> <p>私は、学力をつけることも大事ですが、学校に来て勉強をする意味とか意欲が若干揺らいでいるのかな、と思います。</p> <p>私は、学校集会などで、なぜみんな学校に来て勉強をするのか、という話をたまにしますが、将来には良き姿を描いて、こういう未来があるんだ、という視点で話をしていました。が、あまりにも遠くの未来かな、と、ふと思いました。</p> <p>小中一貫を考えた場合、不登校は、特に高学年になると増える傾向にありますが、中学生の姿を見て、「立派な姿だ」「あんな中学生になりたい」と思うことも大事だと思います。</p> <p>中学生は、鯨高や大学生など、直近の姿を見ることが大事だと思います。</p>

	<p>その具体的な方策として、自分としては、コミュニティスクールだと考えています。</p> <p>地域のなかで関わっていくうえで、学年単位の機会もあれば、少しずつ触れ合っていくことも作っていけると思います。</p> <p>コミュニティスクールを進めるうえで大事だと思っているのが、地域の課題を感じ取って、課題を解決するのではなく、自分たちができることを考える「ふるさと学習」などを、このスクールの中で力をつけていく、ということです。</p> <p>それを小学校、中学校のうちから行うことで、子供たち、町のための人材育成に繋がると思います。</p> <p>不登校も手詰まり感もあるなかで、小中一貫になれば雰囲気も変わるのかな、という感じもありますし、居場所がないのであれば、増やせばよいのかな、対応する人も今より増えるのかな、なども考えています。</p> <p>小中一貫教育は、もちろんデメリットもあります。小学校6年生が学校のリーダーだ、と意識は若干薄れるかもしれません。でも良い面のほうがたくさんあるのかな、と考えています。</p>
平田町長	<p>はい、わかりました。</p> <p>それでは、川浪校長、お願いします。</p>
川浪校長	<p>はい、小中一貫教育について、西海小のような小規模校の視点で見た場合、資料15ページに、保護者からのアンケートの回答において「学校の再編・統合は検討すべきだと思うか」で「思わない」との答えの中で、「特に今でも不自由を感じない」や「少人数なので学習面で教育の目が届き、丁寧な指導を受けることができる」という内容は、おそらく西海小保護者なのかな、と思っています。</p> <p>確かに西海小は、人数が少ないので、子供たちにきめ細かに、手厚い指導はできていると思っています。外部から見ても、人数が少ないので、大事に育てるということができると思いますし、それが西海小の良さであると感じています。</p> <p>一方で、今求められているのが、子供たちが成人して社会に出るときには、いろんな人と関わってコミュニケーションをとり、共同して物事を進めることや仕事をする力が大事です。</p> <p>その力が大事であると考えた場合には、少人数学級よりは、ある程度人数がいる学級の中で、小学校から少しずつ力を育てていくべきなのかな、と考えています。</p> <p>基礎的な力は、少人数でもつけることはできますが、思考やコミュニケーション、伝え合う、ということでは、複数の中で、いろいろな人や職員、また地域の人達が関わって、子供たちを育てていくということが、将来的には子供たちや町のために繋がっていくと思います。</p>
平田町長	<p>はい。</p>

	<p>それでは相馬校長、いかがですか。</p>
相馬校長	<p>私は個人的に、小中一貫、義務教育学校の方向性に大賛成です。立場上、学校経営の視点からお話しさせていただきます。まず、校長の立場から考えると、私は中学校3年間でどういう子供を育てたいのか、という意識を持って、それを教育活動に反映させます。こういう子供を育てたいので、こういう教育活動を行います、ということを考えて、先生方へそのことを伝え、進めています。</p> <p>もしこのことが、小学校から継続して9年間で考えるとすれば、もっと大きなことができるのではないか、という思いがあります。なので、早い段階からもっと計画的に、9年間かけて子供達を育てることで、もっと特色ある活動ができるであろう、と思います。</p> <p>次に、教員の立場から考えると、情報共有がしやすいことが一番良いことだと思います。</p> <p>現在、距離があり、違う学校であることで、年間で小学校、中学校の先生が顔を合わせる機会が2、3回しかない状況です。そのなかで、子供たちの細やかな情報、意見交換は難しいです。</p> <p>そのことが、すぐ隣に校舎がある、または同じ学校の中に小学校、中学校の先生がいることで、日常的に子供たちについての情報交換ができるわけです。</p> <p>当然ながら、不登校であったり、さまざまな問題に関しても、対応が早く、きめ細やかになるわけです。</p> <p>なので、先生方にとっては、同じ校舎やすぐ近くの学校で日常的に情報交換できることが、すごく効果的なことだと考えます。</p> <p>3つ目に、子供の立場で考えると、三戸学園の視察の際、先生方がおっしゃっていた内容で、小中一貫で、中学生がすごく優しくなる、ということです。</p> <p>日常的に小さい子供たちと一緒に生活することで、自分たちがその子供たちの面倒を見なければいけない、大切にしなければいけない、という思いが育っていくことで、中学生が優しくなる、ということでした。</p> <p>私もまさにそのとおりだろうな、と思います。年に1回か2回、小中が何かの活動をするのではなくて、日常的に小さい子供たちと触れ合う場面が良いな、と思います。</p> <p>その意味で、小中一貫、義務教育学校の方向性は、メリットが大きいと思います。確かに小学校6年生のリーダー制において、デメリットも多少はあると思いますが、それよりもメリットのほうが大きいのかな、と思います。</p>
平田町長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>さて、教育長には、最後にさまざまお話しいただくことにします。</p> <p>川浪校長から、西海小が小規模校と言われた時には、私もショックで</p>

	<p>した。</p> <p>三戸学園は、私も視察しました。三戸では、勉強のために文科省へ職員を1名派遣して、町と文科省がうまくやり取りしながら小中一貫を達成したと聞いています。</p> <p>また当初は、校長が2名いましたが、最終的には1名となりました。デメリットというよりも、メリットが大きく、大変参考になりました。</p> <p>鱒ヶ沢町では、決して教育に力を入れてこなかったわけではないですが、やはり三戸のように先々を見据えて進めていくことが必要ではないか、といつも思っています。</p> <p>貴重なみなさんのご意見、ありがとうございました。</p>
平田町長	<p>次に項目2、老朽化した各校舎の現状と今後の対策ということで、みなさんからまず、現状など、ご意見はありませんか。</p> <p>教育委員のみなさん、いかがですか。実際に委員のみなさんは、現場を見たのでしょうか。</p>
阿彦教育長	<p>中学校を見ました。</p>
平田町長	<p>西海小にあっては、53年ほどですか、私が小学校4年生のときからになりますので、それぐらい経っていると思います。</p> <p>いかがですか、みなさん。</p> <p>はい、尾崎委員、どうぞ。</p>
尾崎委員	<p>鱒ヶ沢中学校を見たときに、やはり塩の影響でこんなにも悪くなっているのかなと、子供たちにとって本当に危険ではないかな、と感じました。</p> <p>なので、校舎を建てる、ということにならないだろうと思いますが、何とか子供たちの安全を確保してほしいと思いました。</p> <p>また、陸上のグラウンドに関しては、多少荒れているように感じましたので、町で何とかできないかな、と。</p> <p>どちらにせよ、子供達の安全を確保しなければいけないのかな、と感じました。</p>
平田町長	<p>相馬先生、陸上のトラックはどのように荒れているのですか。</p>
相馬校長	<p>草の状態が一番であると思います。</p> <p>運動会の前には、PTAの方々にご協力をいただいて、全校生徒で草取りやグラウンド整備を行っていますが、限界もあります。</p> <p>今年度は、町で機械によって均してもらいましたが、その後で土が柔らかすぎて畑状態のような場所で運動会を行い、また、雨の後だったことも重なり、大変な状況でした。</p> <p>このため、定期的な整備は必要であると思います。</p> <p>ただ、学校の予算ではどうにもならず、難しいところです。</p>
平田町長	<p>このほか、ございませんか。他の校長先生、現場の声をお聞かせください。</p>

三橋校長	<p>本校は築26年ですが、印象としては、もう26年も経ったのかな、もう少し新しいのかな、と見受けています。</p> <p>資料の写真にもあるとおり、やはり普通の家でもそうですが、少しずつ箇所は出てきますよね。</p> <p>一番気をつけたいのが、安心安全に教育活動ができるかどうかであって、少しでも生じたときには、教育委員会へお願いの電話をします。すると、すぐに対応してくれますので、それが素早いな、とありがたく思っています。</p> <p>本校は、当分この状況でいくとは思いますが、今までどおりの対応をしていただければ助かります。</p>
平田町長	川浪先生、いかがですか。
川浪校長	西海小は、資料のほかにも細かい修繕箇所がありました。すぐに教育委員会で対応していただいていたので、これまでどおりで結構です。
平田町長	今さん、いかがですか。長年西海小にいた頃もありますので。
今委員	<p>私が当時いた頃、ちょうど耐震と老朽化対策の大きな工事があり、とても大変でした。</p> <p>その後、階段の雨漏りなどがあって、水が垂れる、流れてくることもあったので、危ない状況であったと考えることもありましたが、その時も教育委員会ですぐに対応してくれました。</p> <p>ただ、壁だけはどうしようもないということで、みんなで応急的に塗装したことを思い出しました。</p>
平田町長	山崎さん、何かございませんか。
山崎委員	中学校のグラウンドについて、山の斜面から沢の水のようなものが流れてきています。それがトイレや用具室などに続いて、虫も沸いてくるだろう、とのことから、側溝などを入れて排水対策があれば良いと思います。
平田町長	側溝はありませんでしたか。
神総務課長	ありますが、埋まっていると思われます。このために、泥を上げる分別をしなければいけません。
平田町長	清野課長、その状況を教育長、須藤班長とともに現場を確認して、どうしたらよいのかを考えてください。
清野学校教育課長	わかりました。
平田町長	<p>これまでのことは、来年度の予算において、十分とは言い切れませんが、対策をとっていきますので、よろしく申し上げます。</p> <p>続いて、項目3、教育環境の再編に関する保護者及び地域の声、ということで、タウンミーティングとふるさと学習について、みなさんからご意見を頂戴したいと思います。どなたかございませんか。</p>
平田町長	奈良班長、この資料は、令和4年度と比較した場合、内容が多くなっているのでしょうか、それとも同じレベルなのでしょうか。

奈良社会教育班長	もともとある内容を緑色で表し、柱として扱っているものもあるので、一概には言えませんが、多くなっています。
平田町長	はい。尾崎委員、いかがですか。
尾崎委員	<p>コミュニティスクール（以下「CS」。）について、第一に、町民にとって理解されていないのではないかと感じています。</p> <p>その点から、担当としても懸案であるとの説明を受けたので、基本的にはその課題なのかな、と思います。</p> <p>次の段階で、どのような活動しているのかもあわせて説明し、さらにはPRの仕方も理解してもらうことが大事であると考えます。</p> <p>より町民へ浸透していくにはどうしたらよいのか、を常に考えていったほうが良いと感じています。</p>
平田町長	ありがとうございます。山崎さん、いかがですか。
山崎委員	<p>先ほど奈良班長の説明にありましたが、参加する人が少ない、というなかで、もっとどんな範囲や対象にすべきか、は難しいと思いますが、自発的に参加してくれる方々がもっと欲しいと感じます。</p> <p>教育全般に関してもそうですが、隣近所でさまざまな意見を言う人もいますが、そのような声をどのように吸い上げるのが大事であり、そのためのCSであると思います。</p> <p>さまざまな意見を言う人に限って、そのような機会に参加しない傾向にもあるので、難しい事ではありますが、なんとかしたいです。</p>
平田町長	今さん、いかがでしょうか。
今委員	<p>CSとはどういうものなのか、ということ、例えば、学校に子供や孫がいるなど、ある程度関わりのある方々であれば、何らかの情報は入ってくると思いますが、それ以外の在宅者などは、広報紙等で情報を得るほか把握しづらいと思います。</p> <p>なので、教育関係だけではなく、地域全体へ分かりやすくアピールすべきではないかと思います。</p>
平田町長	<p>ありがとうございます。確かにコロナ禍にあって、なかなか思うような活動ができない、ということもありますが、CSとは何なのか、と伝えていくことにおいては、教育委員会の努力不足もありますし、教育長も重々承知していることですので、この点については最後のコメントをお願いします。</p> <p>ほかに、三橋先生、いかがでしょうか。</p>
三橋校長	<p>私は、鰯ヶ沢町に来た時に、仕組み作りがしっかりとしているな、と思っていました。ただ、前の学校と比べての話になりますが。</p> <p>CSに関して、外部に対しては、少しずつ浸透していくものだと思います。</p> <p>また町では、地域の方が学校へ来ていろんな活動をしてくれる、子供たちと関わりを持ってくれる、ということは非常に多いです。また、効果も非常に上がっています。</p>

	<p>例えば、本校では、年 10 回ほどのクラブ活動に、地域の方が全て入っています。すると、先生方ができない指導もされ、子供たちは喜んでいきます。</p> <p>そういうこともありますので、タウンミーティングについて、もう少し人が集まったほうが良いとは思いますが、1 回目のタウンミーティングに参加した時に、鱒ヶ沢町の子供たちをどういう子供に育てたいか、というテーマで意見交換をしました。</p> <p>その時に、その場にいる人々が良い表情になりました。やはり、夢を語る時は良い顔になるので、そのような場をもっと持てたら良いと思います。</p>
平田町長	ありがとうございます。川浪先生、いかがでしょうか。
川浪校長	<p>タウンミーティングについては、参加者が少ないということもあったので、1 月の推進事務会議の際も話題になりました。</p> <p>今年の 10 月 30 日に、西北の学校保健研究大会が鱒ヶ沢町で行われる予定です。</p> <p>今、小中連携して公開授業や講演を考えていますが、テーマとしては、児童生徒のゲームやネットによる睡眠不足によって、朝起きられない、登校を渋る、などの事案を少しでも解消できるよう進めています。</p> <p>講師は、青森県立保健大学の古川照美教授を予定しています。古川教授は、ほけん福祉課と協力して、中学校の親子プロジェクトで関わりを持って、生徒のデータをとっています。その点からも、ほけん福祉課や小中、地域との繋がりを講演のテーマとすることで、保護者や教職員、子ども園など関わっていただけるのではないかと話題にもなり、古川先生にもそのことを伝えています。</p> <p>そのことを、タウンミーティングに繋げていけたらいいな、と考えていました。</p>
平田町長	ありがとうございます。相馬先生、いかがでしょうか。
相馬校長	<p>CS を考えたとき、私がこの学校へ来てすごいなと感じたことが、学校が教育活動をするなかで、地域の方々が協力してくださる受け皿がきちんとできていることでした。</p> <p>例えば、学校で講師を考える際に、学芸員や役場職員が直接学校へ出向いて子供たちに教えてくれる、などの受け皿がしっかりとしています。</p> <p>また、こういう活動をしたい、というときに、教育委員会へ相談するとすぐに探してくれます。</p> <p>学校がしたいことを協力してくれる環境にあるので、したいことをさせてくれる、という環境がすごく整っている意味では、CS として進めている効果があるのかな、と感じています。</p> <p>ただ、町の一般の方々が、もっと小中学校の子供達に関心を持って、</p>

	<p>いろいろなことを様子見してもらおう、というところまでには至っていないと思います。</p> <p>今年、大雨の災害があったなかで、社会福祉協議会に相談し、中学校の行事にたくさんの方々、特に高齢者を呼んできてもらいました。学校の活動をたくさん見てもらおうと、特に今年はたくさん設けました。その時に来てくださった方の代表が、「あなたたちは町の宝です。」と褒めてくれた時に、子供達の表情がすごく変わりました。あんな風に、地域の方々と関わり、褒めてもらう機会が多ければ多いほど、子供たちは良く育つと思います。</p> <p>そのために、学校としても、もっと地域に出ていきたい、という思いがあり、私は、地域のボランティア活動に子供たちを関わらせたいと考えています。</p> <p>しかし、中学生という枠や、先生が同伴するのか、などの懸案があって思うように進んでいかない状況にもあります。</p> <p>中学校なので、部活動の制限もありますが、来年度はできるだけ子供たちが、町のイベントや活動に関わっていけるように、と願っています。それを地域の人たちが見たときに、声かけをしてもらえれば、すごく良いなと思います。</p>
平田町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、項目1から3について、みなさんからさまざまご意見を頂戴しました。</p> <p>せっかくの機会ですので、それ以外のご意見などございましたら、と思いますが、いかがでしょうか。</p>
相馬校長	はい。
平田町長	はい、どうぞ。
相馬校長	<p>正直な学校現場の悩みです。</p> <p>ICTでタブレットを1台ずつ子供たちが持っているのですが、いろんな障害もあって、なかなか活動が上手く進んでいません。</p> <p>進めるために、教育委員会とも相談をしていますが、進め方を変えていかなければならないと思っています。</p> <p>先生たちも頑張ってはいますが、限界を感じているところです。</p> <p>具体的には、ICT支援員が、定期的に学校へ来てくれるのであれば、相談もしやすく良いな、というのが正直なところです。</p> <p>今は、何かがあった時に、相談して、そして来てもらう、という流れで、そのタイムロスが間に合わない状況が多々あり、悩みです。</p> <p>さらに具体的に言うと、先生たちも工夫していますが、タブレットを使う授業のときに、一斉で授業を始めると、30人ほどの規模になると必ず1台か2台にトラブルが生じます。そのトラブルに、その先生が対応してしまうと、そこで10分、20分経過してしまいます。そのことで当日の授業は失敗に終わってしまいます。</p>

	<p>このケースが頻繁にあるので、先生たちは、タブレットの授業を行ってもうまくいかないという思いが強いです。</p> <p>せっかく準備をしても、トラブル対応で終わってしまいます。</p> <p>先日秋田へ行った際にすごいと思ったのが、そういうケースの際、廊下にいる職員へ声がけをし、授業を進めながらトラブル対応もでき、先生は授業に専念できる、ということでした。これを見たときに、正直、うらやましいな、と感じました。</p>
平田町長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ほかにございませんか。</p>
平田町長	<p>この会議は、年に1回でなくても、また今回以外にもみなさんとお話をする機会はあると思います。</p> <p>それでは次に、教育長から、今までのさまざまなお意見を踏まえて、一言お願いします。挨拶ではない形で、半ば答える形でお願いします。</p>
阿彦教育長	<p>まず、今日はありがとうございました。いろいろご意見を頂戴し、また、言いにくいところは直接町長へ伝えていただき、ありがたいと思っています。</p> <p>今日は、3つのポイントについて、一貫教育から老朽化、教育再編などがテーマとしてありました。</p> <p>確認できたのは、一貫教育については、みなさん同じ方向を見ているということなので、ぜひ早めに進めていきたいと思っています。</p> <p>令和3年10月にも、この一貫教育に関して、総合教育会議で話題となっていて、あの時は学校再編のさまざまなパターンについて挙げました。</p> <p>そこから具体的な活動がなかったのもあって、今回あらためて具体的なメリットやデメリットなどの話し合いがなされ、前向きに取り組めるだろうな、と確信しました。</p> <p>ただ問題は、ハードの面をどうするか、であり、やはり難しいです。一方、ソフト面では、小中一貫教育のカリキュラムを組んで、早速来年度からでも始めたいと思っています。</p> <p>ふるさと学習のカリキュラムは、未完成ではありますが、完成させて、そこに英語の授業を組み込むなどして、ソフト面ではいくらかでも早く作って進められたら良いと思いますし、できたものから取組を進めていけたらよいと思っています。今日のお話について、ソフト面は、すぐに進めようと決心した次第です。</p> <p>繰り返しになりますが、ハードの面は、来年度以降、教育委員会で具体的な案をいくつか考え、タイムスケジュールも交えながら、どういう時間軸で進めていくのかを提案し、教育委員会の中で検討した後、第三者にもご意見を伺うような活動を進めていきたいと思っています。</p> <p>また、校舎の老朽化について、すぐに建て替えることはできません</p>

	<p>が、最低限、安全確保してまいります。子供たちに怪我がないようにするのが一番ですので、そこはできる範囲で進めていきます。</p> <p>CS の話題もたくさん出ました。CS と一貫教育については、以前にも話をしましたが、互いに良いシステムであると言われています。</p> <p>一貫教育を進めるにあたり、地域とともにある学校づくり、というのが CS のテーマですので、地域の方々に力を貸してもらって、小中一貫して支えてもらえるような仕組みを進めていくことと、みなさんからもあったとおり、CS とは何なのか、と分かってもらう仕組みを検討しなければならない、という反省と決意をしました。</p> <p>それから最後に、みなさんからの話を聞いていて、子供たちをこんな子供にしたい、という思いを胸に秘めながら意見を言っていたのですが、私も、鱈ヶ沢町の人材育成はふるさと学習が基になる、と思っています。</p> <p>一貫教育のソフト面はきちんとできますが、箱もきちんとできると、新しい教科を一貫教育に取り入れることもできます。具体的には、三戸学園の「立志科」のように、あのような科目を私たちの町でも作ったら良いですし、またもう一つ、「英語科」もあります。</p> <p>一貫教育の制度の中で、町としての人材育成を目指しながら新しい教科も取り入れていきたいと考えています。</p> <p>この場で宣言をすると、きちんと進めなければなりませんので、自分を縛る、という意味でも目指していきたいと思えます。</p>
平田町長	<p>みなさんには長時間にわたり、さまざまご意見をうかがいました。非常に示唆に富んだご意見であり、私たちはこれから参考にして参ります。</p> <p>先ほど、尾崎委員から、「育食住」というお話もありました。</p> <p>鱈ヶ沢町は、どちらかという「作る文化」に力を入れてきましたが、「育てる文化」は力足らずでした。これからはしっかりと育てていく、ということを考えていきたいと思えます。</p> <p>また、教育環境についても当然しっかりと環境づくりも必要です。ハード、物理面でもしっかりと教育委員会と一緒に考えていかなければなりません。</p> <p>子供達が、将来の夢を語れるような、というお話もありましたけれども、町自体、大人もしっかりと夢を語れるような町にしていかなければなりません。</p> <p>本日はさまざまご意見を伺いましたので、しっかりと実現に向けて頑張っていきたいと思えます。</p> <p>最後に、立会人の副町長から一言お願いします。</p>
加藤副町長	<p>やはり「育食住」は大変重要かと思えます。</p> <p>先ほど委員がお話しされたとおり、子供達も夢を語れるさまざまな機会があると思えますが、私が個人的に思うのは、子供の時代から、さ</p>

	<p>まざまな環境や社会情勢などを受け、基本は「生きていく力」を、ぜひ小学校、中学校の時代に付けてもらいたいと思います。</p> <p>昔の話では、金の卵と呼ばれた集団就職もあり、それも生きていくために高校にも進学せず、社会に出た子供達も多かったです。</p> <p>高校、大学へ進学しても、最終的には社会で勤めることになるので、やはり生きていく力を何らかの場面で付けてもらいたいです。</p> <p>それが、鱈ヶ沢町でいうふるさと学習の内容にもあるはずなので、私達も公私ともに応援したいと思います。</p>
平田町長	<p>金の卵は、集団就職の時代で、私達が中学校の頃は、東京から会社の人説明に来ると、「月の石、ムーンストーン」と言われ、それだけ貴重な人材であると言われた時代でした。</p> <p>当時はほぼ高校進学でしたが、そのなかでも就職した人も十数名ほどいました。</p> <p>ただいま副町長から「生きる力」ということで、夢の話もありましたが、当時は漁師になることが夢でした。</p>
平田町長	<p>本日は、貴重なご意見、有意義な会議になったと思っています。</p> <p>先ほども申しあげましたが、話だけではなく、しっかりと、みなさんと一緒に進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p>